

令和4年11月14日、「災害時等における民間施設等の協力に関する協定」および「災害時における緊急通行妨害車両等における緊急通行妨害車両等の排除業務に関する協定」を締結しました。

災害時等における民間施設等の協力に関する協定

本協定は、市とイオン東北株式会社社宮城事業部イオン古川店、古川地区遊技業組合、古川七日町パーキングなどに締結したもので、災害時などに、浸水深より高い場所に避難できるよう、市の要請に基づき、民間事業者が運営管理



▲災害時等における民間施設等の協力に関する協定の締結

する施設などを可能な範囲で一時的避難場所として提供していただくものです。

災害時等における緊急通行妨害車両等の排除業務に関する協定

本協定は、市とジャパンカーレスキュー株式会社で締結したもので、災害時などに迅速に緊急対策を実施するために、市の要請に基づき、通行の妨げになる車両などの排除業務を行うものです。

市では、市民の生命を守るべく、災害時に備え万全な体制を整備していきます。



▲災害時等における緊急通行妨害車両等の排除業務に関する協定の締結

CITY TOPICS

まちの話題や出来事、ニュースをお届けします！

第6回全国ササニシキ系「ささ王」決定戦 2022開催ー第六代「ささ王」が決定ー

令和4年11月25日、「ササニシキ」や「ささ結」(ササニシキ系)のおいしさを競う「第6回全国ササニシキ系」ささ王決定戦2022」の最終審査が、古川農業試験場で実施されました。

「ささ王」決定戦には、「ささ結」・23点、「ササニシキ」・63点、総勢86点が出品され、機器分析を経て、「ささ結」と「ササニシキ」の各TOP5の計10点が最終審査に進みました。最終審査では、審査員6人

による食味の官能を行い、関孝浩さんが第六代「ささ王」に輝きました。関さんは、令和2年の第四代「ささ王」に続き、史上初の2回目の「ささ王」受賞者です。

関さんは、「昨年は出来が悪かったが、今年はずっと良かった」と受賞した喜びを語りました。

市では、これからも和食や寿司に合う、あっさり、冷めてもおいしい、ササニシキ系をより一層推進していきます。

第6回全国ササニシキ系「ささ王」決定戦2022の受賞者(カッコ内は受賞銘柄)(敬称省略)

第六代「ささ王」、 「ささ王」・大崎耕土賞	関 孝浩(ささ結)
金ささ賞	加藤 憲治(ささ結) 佐藤 良夫(ササニシキ)
銀ささ賞	加藤 憲治(ササニシキ) 千葉 利広(ササニシキ) 高橋 正則(ささ結) 佐々木 礼蔵(ササニシキ) 高橋 一馬(ささ結) 佐藤 徳志(ささ結) 佐々木 千里(ササニシキ)



◀第六代「ささ王」に輝いた関 孝浩さん

「新・水害に強いまちづくり」の実現に向けて

都市計画課事業調整担当 ☎23-8069

近年、頻発化する傾向にある水害に備えるため、流域のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」の推進、および水害に強いまちづくりの推進が急務となっています。

市では、令和元年東日本台風をはじめ、これまで多くの水害を経験している鹿島台地域を対象に、一般社団法人 東北地域づくり協会と、流域の特性に応じた効果的な水害対策の共同研究に取り組んできました。

この共同研究では、住民自ら地域づくりを考えるワークショップを実施するとともに、治水の専門家から意見をいただき、令和4年10月に研究成果を報告書として取りまとめました。

今後、この報告書で検討した「新・水害に強いまちづくり」を推進していきます。

「新・水害に強いまちづくり」

「吉田川堤防の決壊リスクを低減させる」ことを流域の共通目標としつつ、「万が一堤防決壊による氾濫や大規模な内水氾濫が発生しても、早期に普段の生活を取り戻す」ことを目標に加え、次の対策に取り組んでいきます。

(1) 吉田川堤防の決壊リスクを低減させるために

- ▶ 河道掘削(※)や遊水地など貯留施設の整備、田んぼダムの推進
- ▶ 堤防の効果的な強化対策や維持管理の実施

(2) 堤防決壊による氾濫が発生しても早期に普段の生活を取り戻すために

- ▶ 高い防災意識をつないでいく地域の取り組みと市の支援
- ▶ 宅地地盤のかさ上げによる浸水深の低減
- ▶ 既存排水機場の稼働や効率的な排水による浸水時間の短縮

(3) 大規模な内水氾濫が発生しても早期に普段の生活を取り戻すために

- ▶ 雨水排水計画の一層の促進
- ▶ 雨水計画区域外からの流入を抑制する氾濫域のブロック化

田んぼダム装置

▶自動給排水栓



◀ローポート型
せきいた
堰板

※洪水時の水位を低下させるため、河道を掘り、水が流れる断面積を広くすること。



詳しい内容は、
こちらから

▲「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究報告書

「大崎市水害に強いまちづくり」 共同研究専門家会議

3回にわたり開催した「大崎市水害に強いまちづくり」共同研究専門家会議では、治水の専門家から意見をいただきました。



◀国立研究開発法人 土木研究所
水災害・リスクマネジメント
国際センター長 小池俊雄 氏



▶東北大学 高度教養教育・
学生支援機構 教養教育院
総長特命教授 田中仁 氏



◀公益財団法人 リバーフロント
研究所 代表理事 塚原浩一 氏

鹿島台 志田谷地区 地域づくりを考える ワークショップ



住みよい志田谷地地区を目指して

地域住民が一体となり、暮らしをめぐる課題を考えるとともに、令和元年東日本台風による被害を振り返りながら、持続的に発展できる地域づくりについて話し合いました。

今後、市では「新・水害に強いまちづくり」の実現に向け、国や県、流域市町村をはじめ、地域住民と連携し、安全で安心な地域の発展につながるまちづくりに取り組んでいきます。

また、今回取りまとめた研究の成果を市内の水害対策に波及させていきます。